

MÉMOIRES 2021

朝日杯フューチュリティステークス

第73回朝日杯フューチュリティS(GI)優勝馬ドウデュース



レジェンドに導かれ無敗の王者誕生

大器が重賞初挑戦でGIを制し、無傷の3連勝でタイトルを獲得。キャリア35年目の鞍上は、これでJRA・平地GI完全制覇に“王手”となった。

新馬戦、新潟2歳S、デイリー杯2歳Sと3連勝中のセリフォス。新馬戦に続き4馬身差で札幌2歳Sを圧勝した2戦2勝のジオグリフ。2頭出走している重賞ウイナーはともに無敗で、その両者が1、2番人気に推されて迎えた一戦。しかし勝ったのは、これが重賞初出走の3番人気ドウデュースだった。

レースはもみじSを逃げ切っているカジュフェイスの先導で進んだ。セリフォスは好位集団の中、ジオグリフは後方2番手と対照的な位置取り。ドウデュースは先団を前に見る形での追走となった。

直線、大きく横に広がった馬群から、素晴らしい反応でセリフォスが抜け出してくる。その外から並びかけてきたのがドウデュースだった。残り200m過ぎにセリフォスと馬体を併せると、大きなストライドでじわじわ前に入る。最後はねじ伏せるように半馬身の差をつけてゴールした。

小倉の芝1800mの新馬戦で初勝利を飾ったドウデュースは、続く東京の芝1800mのアイビーSも勝利。いずれも2着馬とはクビ差だったが、着差以上の余裕を感じさせる勝ちっぷりを見せていた。この日も同様で、セリフォスとは半馬身差ながら、その手応えと足取りは見るからにまだ余力十分。ちなみに小倉デビューの馬が朝日杯フューチュリティSを制するのは、これが史上初のこととなった。

レース後、「さすがに相手も強くて、なかなかしぶとかったけど、最後まで一生懸命走ってくれましたね」と愛馬を労った武豊騎手。「拍手がすごく嬉しかったです」と振り返ったように、ゴールの瞬間には万雷の拍手が阪神競馬場を包んでいた。ファンは知っていたのだ。武豊騎手にとって、これが22度目の挑戦で初の朝日杯フューチュリティS制覇であることを。

前人未到のJRA・平地GI(24競走)完全制覇へ、残すはホープフルSのみとなった武豊騎手。レジェンド・ジョッキーが記録に王手をかけた勝利としても印象に残る一戦となった。



▲4コーナーを回る駿馬たち15騎。

▶ハーツクライ産駒の勝利は2019年ホリオン以来2年ぶり。



第73回朝日杯フューチュリティステークス(GI)

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/着差	人気	通過順位
1	ドウデュース	牡	2	55	武豊	友道 康夫	1:33.5	③	⑧⑦
2	セリフォス	牡	2	55	C.デム一口	中内田充正	1/2	①	⑤⑥
3	ダノンスコーピオン	牡	2	55	松山 弘平	安田 隆行	1/2	④	⑧⑨
4	アルナシーム	牡	2	55	池添 謙一	橋口 慎介	1 3/4	⑧	⑫⑬
5	ジオグリフ	牡	2	55	C.ルメール	木村 哲也	ハナ	②	⑭⑮
6	トウシンマカオ	牡	2	55	戸崎 圭太	高柳 瑞樹	ハナ	⑨	③④
7	ドープネ	牡	2	55	吉田 隼人	武 幸四郎	3	⑤	⑫⑬
8	ブルバレイ	牡	2	55	M.デム一口	須貝 尚介	1/2	⑥	③④
9	トゥードジボン	牡	2	55	藤岡 佑介	四位 洋文	1/2	⑬	②②
10	スプリットザシー	牝	2	54	和田 竜二	西村 真幸	クビ	⑫	⑩⑨
11	ヴィアドロローサ	牡	2	55	鮫島 克駿	加藤 征弘	1 3/4	⑩	⑩⑬
12	オタルエパー	牡	2	55	幸 英明	中竹 和也	クビ	⑦	⑤⑤
13	セッカチケーン	牡	2	55	団野 大成	高柳 瑞樹	クビ	⑭	⑤⑦
14	カジュフェイス	牡	2	55	秋山真一郎	森田 直行	1 1/2	⑪	⑪⑪
15	シンリミテス	牡	2	55	園分 優作	大根田裕之	大差	⑮	⑮⑮

単勝 ⑦80円 複勝 ⑨200円 ④120円 ⑦230円 枠連(3-5) 690円
馬連 ④-⑨1,060円 馬単 ⑨-④3,000円 ワイド ④-⑨420円 ⑦-⑨1,070円 ④-⑦410円
3連複 ④-⑦-⑨2,350円 3連単 ⑨-④-⑦14,840円

ハロンタイム 12.6-10.6-11.1-11.9-12.1-11.9-11.2-12.1
通過タイム 600m ③34.3-800m ④46.2-1000m ⑤58.3-1200m ⑥1:10.2-1400m ⑦1:21.4

優勝馬 **ドウデュース**
2019.5.7生 父ハーツクライ 母ダストアンドダイヤモンド 母の父Vindication
安平・ノーザンファーム生産 馬主:(株)キーファース